

女子井出6位、庭田は7位。男子は田山が11位

2007ITUワールドカップ・バンクーバー大会速報

優勝は女子フリナー(NZL)、男子はウィットフィールド(CAN)

6月10(日)、北京オリンピック出場にその結果が大きく影響する来年のITU世界選手権の開催地バンクーバーで、ITUワールドカップ・バンクーバー大会が開催された。

前日からの雨で気温も低いなか、正午ちょうどに女子がスタート。アメリカ勢のサラ・マクラーティとサラ・ハスキンスが先行し、そのままバイクでも逃げの体制に入った。

その後ろの第2集団には、井出樹里(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)と庭田清美(アシックス・ザバス)が入り前を追う。その後ろの第3集団には、上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)、関根明子(NTT東日本・NTT西日本)、高木美里(湘南ベルマーレ)、中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)が入りペースを上げて第2集団を追い始めたが、バイク序盤に雨が降り出し、路面が滑りやすくなったためにスピードが落ち、そのままランへと突入した。

ランでマクラーティが下がるなかハスキンスは好走を見せる。しかし、第2集団からサマンサ・フリナー(ニュージーランド)とエリン・デンシャム(オーストラリア)が追い上げ、結局フリナーが2時間3分25秒で優勝。2位はハスキンス、3位はデンシャムだった。

フリナーはレース後、「雨でバイクのペースが落ちたが、ランで追いつけてよかった」と語った。

日本選手は、井出と庭田がよく追いつけて6位と7位に入った。

午後3時スタートの男子は、アンディ・ポッツ(アメリカ)がトップでスイム



浜から走り込むスイム。左に山本良介(トヨタ車体)



女子バイクでは序盤から雨が降り出した

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



女子井出6位、庭田は7位。男子は田山が11位

2007ITUワールドカップ・バンクーバー大会速報

を終えると、アレキサンダー・ブルカノフ(ロシア)とコリン・ジェンキンス(カナダ)が続く。これにサイモン・ウィットフィールド(カナダ)らを加えた7名が、バイクで第1集団をつくって逃げ始めた。その後ろに2名の集団があり、第3集団は、バイク終盤には30名前後にふくれあがった。

ランに入ると、ウィットフィールド、ポッツ、マット・リード(アメリカ)がサイド・バイ・サイドで競り合ったが、経験に一日の長があるウィットフィールドに軍配は上がり、1時間49分16秒で優勝した。2位はポッツ、3位はリード。

ウィットフィールドは、「ほかの二人と競り合えたから勝てた。昨年は調子が悪かったが、今年は北京へ二つ目の金メダルを取るために頑張る」とコメントした。

日本選手は、田山寛豪(チームテイケイ)がランで粘って11位となった。

なお、レースの様子はフォトギャラリーでご覧になれます。



ウィットフィールド、ポッツ、リードの3名の競り合い

井出 樹里

(トーン・日東紅茶・TEAM KEN'S)



リチャーズベイ大会の7位に続き、過去最高位の6位となったが、満足してはいない。もう少し上に行けたと思う。バイクで雨が降ってきて、ペースを上げられず、積極的に前を追えなかった。スイムで出遅れたのが痛かった。スイムのコースローブがなく、泳ぎにくかった。

庭田 清美

(アシックス・ザバス)



トランジションはうまくいって、ランにいい位置で出られた。しかし最近、ランの最初で調子を見ながら走らないといい結果にならない。それがランの出だしで少し遅れるような展開になる。それを直すのが課題。バイクで雨が降り出し、落車もあってペースが落ちてしまった。

田山 寛豪

(チームテイケイ)



得意のスィムからペースがつかめず、苦勞するレースとなった。ランでは、細田選手が先行してくれたので、追いついて追い越す目標ができた。感謝したい。少し疲れがたまっているので、身体をよく休めて次のレースに挑む。最後まで応援の声が聞こえて冷静にレースできた。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

